

11月11日は
介護の日!

WEB こうち介護の日 フェスタ2020

～わたしとあなたと、みんなできずく、やさしい未来～

こうち介護の日ポスター・作文コンテスト

受賞作品集



高知県

『今の高知県と私の夢』

高知県立高知農業高等学校三年 古田 なごみさん

こうち介護の日
ホスター作文コンテスト
高校の部
優秀賞

私が高校生になった時、祖父母に介護が必要になりました。今までできていたことができなくなり、日常生活ですら、誰かの力を借りないといけない状態です。そんな祖父母を見て、今までできていたことができなくなるってどんな気持ちなんだろうと思うことがありました。私が明日、一人でベッドから起き上がれなくなったらどんな気持ちになるのでしょうか。一人で食事ができない、一人でトイレに行けない……想像するだけで不安になります。祖父母はと思うと、高齢だから仕方ないでは済ますことのできない寂しい気持ちになります。だから私は、祖父母を手伝っています。私がやってもらって嬉しいと思うことを祖父母にやっています。

私は、畜産総合科の実習で言葉が話さない動物たちの世話をしました。最初は先生に言われたことだけをやっていましたが、牛や豚などの動物の様子を見て、今こうしてほしいのではないかと、今はそつととしておいてほしいのではないかとということが分かるようになってきました。言うことを聞かない暴れる豚もいましたが、今では私たちが作業しても落ち着いています。私たちが世話をしてくれている、自分たちに害を与える人間ではないということが分かり、動物なりに信頼してくれているように思うのです。じっくりと観察する、落ち着いて対応する、何をしてほしいのか想像する、これらのことは動物だけでなく、介護をしていくうえでも必要なことのように感じます。

祖父母のこともあり、将来介護福祉士になりたいと考えていた私は、インターンシップで老人ホームに行きました。その時心がけたのは、入所者の方の様子をよく見る、落ち着いた口調で話をする、相手の気持ちになって考えることです。初めての方なので難しいところもありましたが、実習で心がけてきたことでもあったので、自然とできたのです。

さらに、高齢者だけでなく、ろう学校、盲学校の子どもたちなど障がいをもった方、子どもたちとコミュニケーションがとれる介護士でもありたいと思っています。手話や点字なども勉強し、支えを必要とする人の役に立ちたいと思います。

現在の高知県は、高齢化が進んでいます。介護が必要な人も多くいます。しかし、介護職の人は不足しています。私はこれから介護について専門的に勉強をしていきますが、祖父母の介護の経験から、ノリリフティングケアを推進したいと思っています。介護職の方の身体的負担の軽減ということもあります。しかし、それだけではありません。ノリリフティングケアは介護を受ける方への自立支援を考えた安全なケアでもあります。介護を受ける方の自立支援は本場の介護だと思おうのです。

多くの人を幸せにできる、多くの人を笑顔にできる介護士を目指し、頑張ります。

『わたしの夢』

高知県立室戸高等学校三年 松田 名央さん

こうち介護の日
ホスター作文コンテスト
高校の部
優秀賞

私が介護の道へ進もうと思ったきっかけは、私が小学5年生の時、祖父がだんだんと歩けなくなってきたこともあり、ホームヘルプサービスの利用を始めたことがきっかけです。その時の訪問介護員さんが祖父のサポートをしている姿を見て、率直にかっこいいと思いました。

しかし、祖父がホームヘルプサービスを利用して1年が経った頃、祖父は寝たきり状態となり、声はかすかに聞こえますが口から食事がとれないため、栄養補給などは胃ろうに取り付けたチューブから行っている状態でした。そこで私は訪問介護員さんに、「将来、介護士になりたいので、私にできることを教えてください」とお願いをしました。訪問介護員さんは、「いいよ」と言ってくれ、その日から訪問介護員さんからおむつ交換の仕方などの基本な介護技術を教わりました。訪問介護員さんがいる時間は朝8時から夕方5時までだったので、夕方5時以降は、私が祖父をサポートしました。しかし祖父の状態は良くはならず、私が高校に入学する頃には、喋れない状態にまで悪化していました。そして私が高校2年生になるのを待たずして、祖父は亡くなってしまいました。私が介護士になりたいという目標を抱くことができたのは、祖父のおかげです。だからこそ、残りの学校生活の中で、介護に関する専門的な知識や技術を少しでも身に付けて卒業したいと強く感じるようになりました。

今年の6月には、室戸市内の特別養護老人ホームで施設実習を経験しました。施設実習では、おむつの交換の方法や、私が授業で考えたレクリエーションの実践、食事介助など、あらゆることにチャレンジしました。知識として知っていても、いざ利用者さんを目の前にすると一人ひとりの個性や特徴に応じた介護を実践しなければならぬので、最初は戸惑いながら介護をしていました。祖父に対してしていたようなスムーズな介護ができませんでした。その後、職員の方のアドバイスもあり、コミュニケーションをとりながら介護を行うことで、少しずつ距離も縮まり、利用者さんの笑顔を見ることができるようになりました。利用者さんの笑顔が、私の介護技術に対する自信にもつながりました。

世間では新型コロナウイルスに関するニュースだけでなく、高齢者虐待などの問題も取り上げられることがあります。私も実際に、高齢者を虐待していると思えるような場面に遭遇したことがあります。世の中には、いまだに体の不自由な人や認知症の人に対して、虐待をする人がいるんだと、怒りのような感情がわいてきます。祖父に対していつでも優しく接してくれた訪問介護員さんのように、介護を通じて誰かに良い影響を与えられるようにこれからも頑張っていきたいです。